希望の鐘

宇部市立見初小学校
令和４年１１月２５日

児童数
１０５人
(11/25現在)

＜学校教育目標＞
さわやかに、かしこく、たくましく未来を拓く見初っ子の育成

季節の移ろいとともに学ぶ楽しさ

校　長　　川本　朋子

１年の終わりとなる月「師走」がやってきます。「師走」の語源も諸説ある中で、「いつもはどっしりと構えて、読経をする師僧までも走り回らなければと思わせるほどの、何かと気ぜわしく慌ただしくなる月」ということです。学校では、何より、２学期のまとめをし、そして１年の締めくくりとともに新しい年を迎える準備をする月と捉えています。

私たちは、季節の移ろいとともにその風情を味わい、楽しんで生活をしています。季節の花々を愛で、年中行事を家族や仲間と共に過ごし、願いを込めて日々を過ごします。四季のある日本ならではとも言えます。そうした中で、物事を見つめる目が養われ、豊かな感性が育まれるのだろうと思います。

学校生活でも、季節の移り変わりを意識した学びを進めています。例えば低学年で学習する**「生活科」**でも、次のような視点を取り入れて単元を構成しています。

〇身近な自然を観察したり、生き物を飼ったり育てたりするなどして、自然との触れ合いを深め、生命を大切にすることができるようにする。
〇一日の生活時間や季節の移り変わりを生かして、生活を工夫したり楽しくしたりすることができるようにする。（小学校学習指導要領解説　生活編　より）

このような学びは、他の教科でも同じように見られます。国語科では季節の俳句や詩を味わったり、理科では植物の成長と季節との関係を見つけたりします。家庭科では季節に応じた住まい方を考えるなど、子どもたちが実体験と合わせて理解し考え、表現することができるように組み立てられています。

見初小学校は、町中にありながらも、季節をたくさん感じられる素敵な学校だといつも自慢に思っています。四季を彩る草木の数々。夏の池で泳ぎ回るメダカや校庭を飛び回るトンボやチョウ。初夏に植えたサツマイモを秋に収穫する喜び。この頃では、山茶花に見守られながら、寒風を吹き飛ばすほどのエネルギーで長距離を走る子どもたち。これは冬の風物詩でしょうか。振り返ればあっという間の１年間も、季節とともに様々な体験活動によって、充実した学びを得ることができました。これからも、季節を感じ、豊かに心を動かしながら学ぶ子どもを育てたいと思います。

落ち葉拾い大作戦

サツマイモの収穫

ジョギングタイム

さて、１２月や１月は、見初地区でも様々な地域行事が予定されています。（詳しくは裏面、または地域紙「見初だより」をご覧ください。）家族や地域で交流しながら、日本の良さを味わう機会となるとよいですね。